

【記憶の継承 / 歴史的ファサード】

岩見沢市内には明治時代以降、鉄道施設や倉庫等の煉瓦を主体とした建物が数多く建てられてきました。今回の駅舎には駅前広場に面した外壁に煉瓦タイルを使用することによって岩見沢の歴史的文化的記憶を継承します。それに対してホーム側のファサードはPCリブが連続した端正な表情を見せます。二つのファサードの対比が、歴史的な空間の復元に留まらない新しさを生み出します。



南側立面図 S.1/500

【人々に愛される駅舎】

□センターホール / 大階段

駅前メインストリートから延びる軸線を受け止めるように建物の中心にセンターホールと大階段を設けます。この空間は駅舎のシンボリックなスペースとして日常的に利用されるだけでなく、センターホールでコンサートやイベントが開催される時は大階段が臨時の観客席となり、駅前広場の延長として人々の交流を生む場となります。



2階平面図 S.1/500

□観光案内

センターホールに面した観光案内は情報ステーションとしての駅舎の中心的な役割を果たします。観光客だけでなく地元の人々にとっても有用な情報拠点として位置づけられます。

□共用空間

駅前広場に面した共用空間は吹き抜けの大空間とし建物の親近性を高め、分かりやすい施設構成とします。

□商業施設

商業施設（民間）は第1乗降場からの利用も想定して、乗降場側にも出入口を設けます。

□回廊

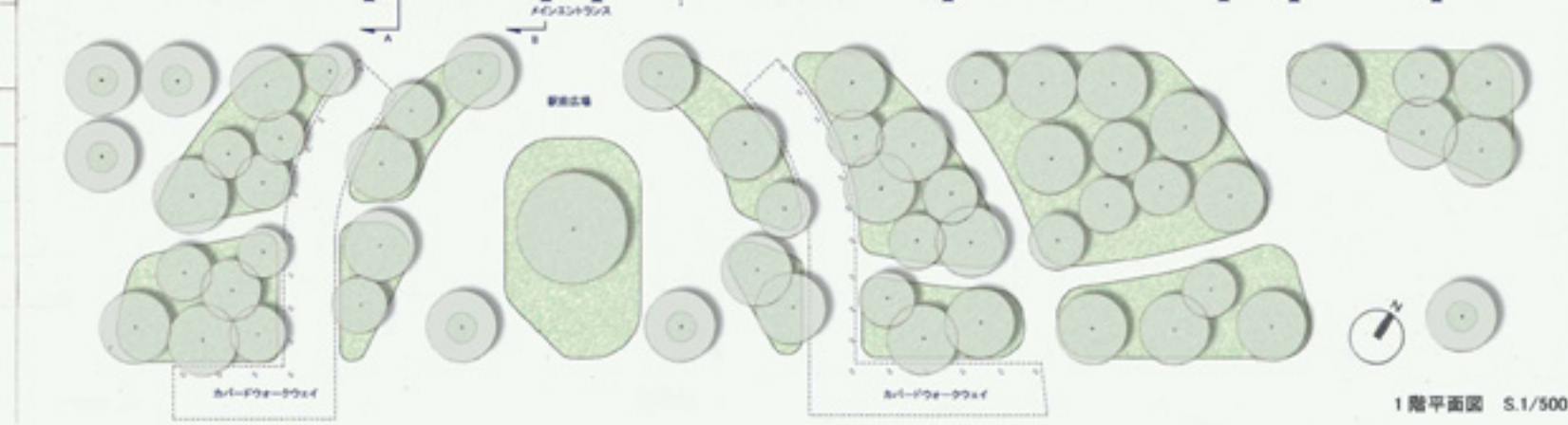
タクシー乗降場から延びる庇はそのまま建物内へと連続し、降客時の移動を容易にします。

□自由通路

南北を結ぶ自由通路は駅建物と同様にプレキャストコンクリートによるPC構法とし仕上げにはレンガタイルを使用することで、駅建物との調和を図ります。



1階平面図 S.1/500



【環境諸要素の統合】

現在CO2増加に伴う地球温暖化をはじめとして地球規模で環境を考慮することの必要性が強く求められています。これらのグローバルな問題に対処するためにも、岩見沢の風土・地域性に十分に配慮し、自然エネルギーを積極的に活用した、環境に優しい施設を目指します。

□冬季

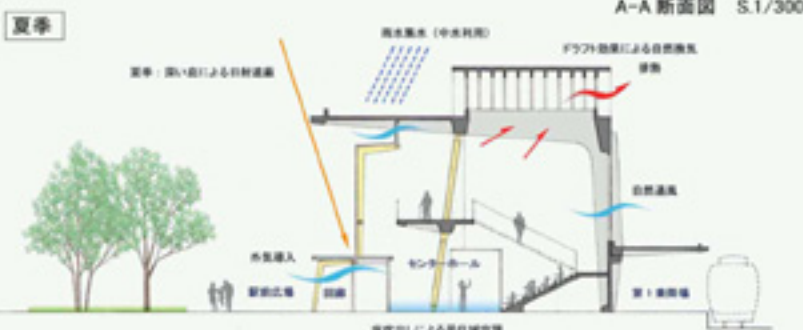
冬は高天井の上部の熱気を床下に導き暖房に利用します。また熱源からの放射熱も期待できます。

□夏季

夏はセンターホールの高い天井を利用したド raft効果で自然換気により熱気を排出します。



A-A 断面図 S.1/300



B-B 断面図 S.1/300

【堅牢なシェルターとしての建築】

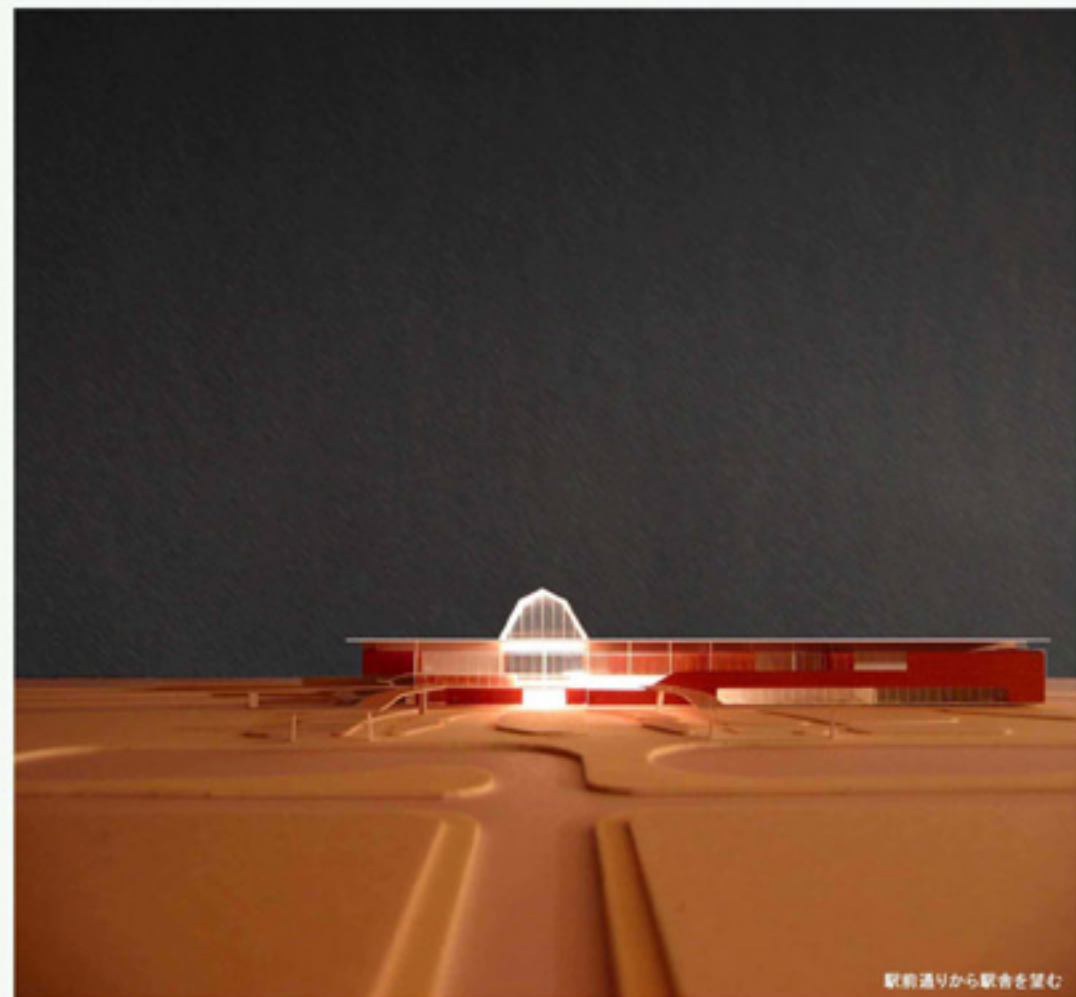
計画地の気候風土、特に寒冷地・積雪を考慮して、構造・構法はプレキャストコンクリートによるポストテンション構法を採用します。除雪などにかかるランニングコスト軽減のため、雪を屋根に載せたままの堆雪型の屋根形態を取りながら、スパンを飛ばし、その自由度の高い空間を内包する堅牢なシェルターとするための選択です。プレキャストのピースは折行き方向にポストテンションがかけられ、駅前広場に開いた逆L型の大屋根を形成します。このPC梁構と斜めに建てられた鋼管が応力を負担し、広帯側のファサードは自由な面が得られるような計画とします。またPC構法は今回の様な設備的施工に相応しいものであり、工業の短縮やインシヤルコストの低減に繋がると同時に、寒冷地において現場コンクリート打設を最小にし、高強度・高品質なシェルターを実現します。



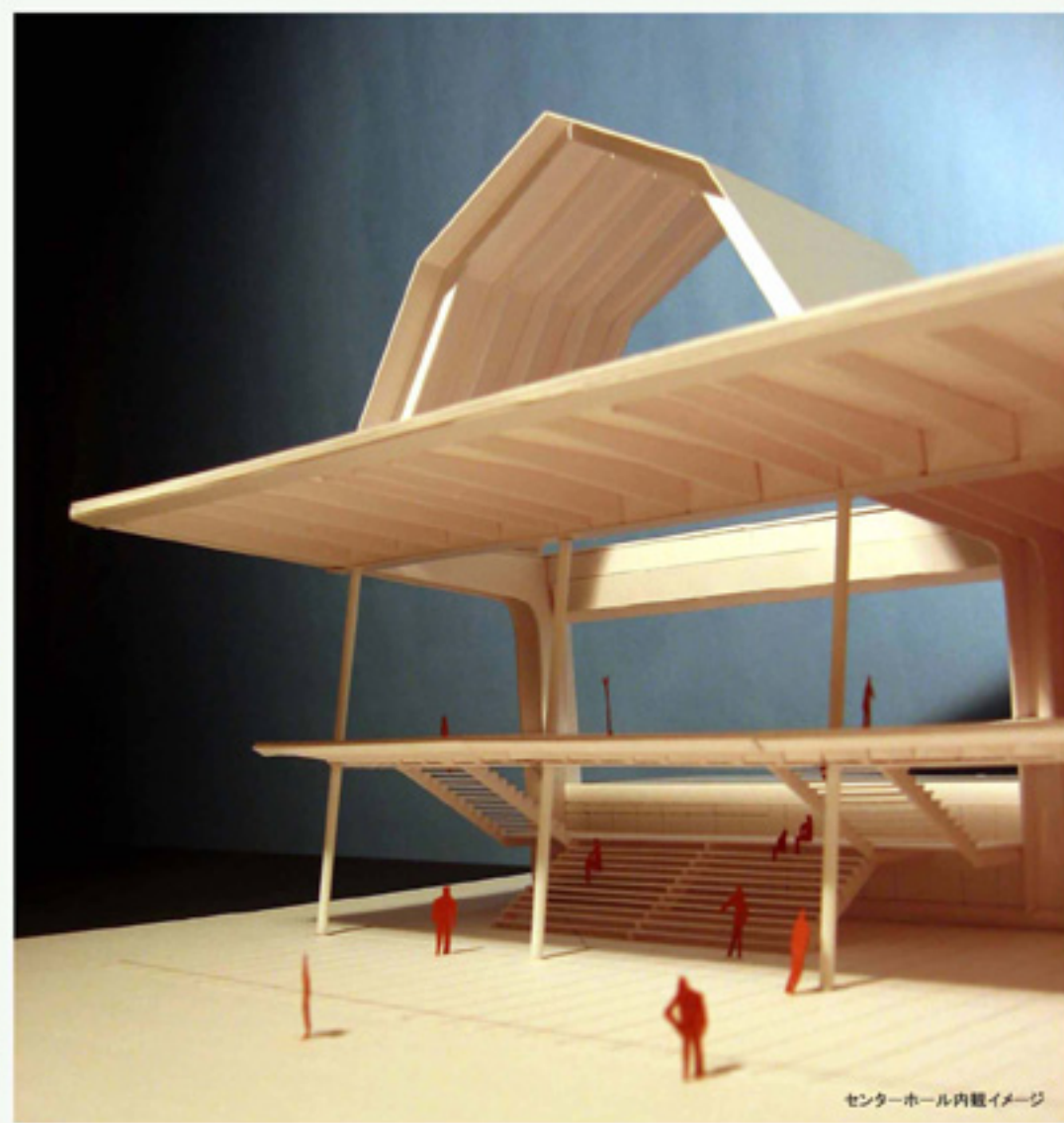
PCリブの連続するホーム側ファサード



大屋根の構造架構



駅前通りから駅舎を望む



センターホール内観イメージ